

学校プロフィール

鈴鹿市立鈴峰中学校

【平成23年3月】

1. 目指す学校像について

項目	内容
(1) 目指す学校像	豊かな人間性とたくましい実践力を持つ生徒の育成 ～ 全ての生徒が安心して楽しく学べる学校 ～
(2) ありたい姿(実現したい学校の状態)	<ul style="list-style-type: none"> ① あいさつの声が響く学校 ② よくわかる授業を提供する学校 ③ 教職員の連携がとれている学校 ④ 学校と保護者・地域とが双方向で連携・協働する学校

2. 現状の認識について

(1) 「価値」を提供する相手方		
① 相手方の区分	②現在の要求・期待	
生徒	○学校が楽しい ○よくわかる授業 ○自分を認めてくれる学校	
保護者	○いじめや問題行動のない学校 ○学力保障・進路保障	
地域	○地域活動への積極的な貢献 ○地域を担う人材の育成	
(2) パートナー		
①パートナーの区分	②パートナーからの要望・期待	③パートナーへの要望・期待
保護者	○学力保障 ○情報の発信	○学校づくりの連携・協働の拡大
地域	○情報の発信	○学校と地域双方向の連携
中学校区小学校	○小中連携・協働 ○リーダーシップ	○小中連携・協働の推進
近隣高等学校	○連携 ○情報交換	○進路での連携
(3) 組織の現状	<ul style="list-style-type: none"> ① 定期的なあいさつ運動は定着してきているが、生徒同士であいさつをかわすところまでは至っていない。 ② 校内研修で授業改善への取組みは進めているが、その手立てや方策について継続した研修の取組みが必要である。 ③ 報告・連絡・相談を徹底することで、教職員同士の意思疎通を図る。 ④ 学校支援地域本部事業をきっかけに、学校と保護者・地域とが双方向で連携・協働する活動が認識されるようになった。 	

3. 目指す学校像実現のための重要な視点(方針)について

(1) 重点化に向けた視点	<ul style="list-style-type: none"> ① 学力保障の推進 ② 特別支援教育の推進 ③ 開かれた学校づくりの推進
(2) 上記の背景・理由	<ul style="list-style-type: none"> ① 授業改善・少人数教育・学習ボランティアの活用・補充学習・キャリア教育・家庭学習の定着等を通して、確かな学力の定着に努めたい。 ② 特別支援教育の視点で授業や学級経営を見直し、すべての子どもたちに有効なユニバーサルデザイン化を図る。 ③ 学校支援地域本部事業や鈴鹿型コミュニティスクールの取組みにより、学校と保護者・地域が連携・協働した双方向の学校教育活動を推進する。